

# CASBEE<sup>®</sup>さいたま2016年版 | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEEさいたま2016年版

■ 使用評価ソフト: CASBEEさいたま2016ver.2.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	信越ポリマー株式会社 東京工場 F工場	階数	地上3F
建設地	さいたま市北区吉野町1丁目406-1	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	248 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年6月 予定	評価の実施日	2023年4月3日
敷地面積	76,029 m <sup>2</sup>	作成者	■■■■
建築面積	5,784 m <sup>2</sup>	確認日	2023年6月16日
延床面積	14,510 m <sup>2</sup>	確認者	■■■■



### 2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

**BEE = 1.6**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100%

② 建築物の取組み 83%

③ 上記+②以外のオンサイト手法 83%

④ 上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価 (バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 2.9

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.3

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.4

**LR のスコア = 3.5**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.1

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.3

3 設計上の配慮事項		
<b>総合</b> 工場の製造機能を維持しながら、計画建物と敷地全体の維持管理・更新に配慮した設計とし、環境負荷を極力低減する計画としている。		その他
<b>Q1 室内環境</b> 開口部遮音性能や余裕を持った照度、換気回数を確保することで快適な室内環境となるよう配慮した。	<b>Q2 サービス性能</b> 製造室はクリーンルームであり、室内ではなく天井裏からの設備点検が主になることを考慮して、ゆとりのある階高設定とし、天井内の点検歩廊からの設備メンテナンスが可能な計画とした。	<b>Q3 室外環境 (敷地内)</b> 排熱のある機器はすべて屋上に設置し、暑熱環境の緩和に配慮している。
<b>LR1 エネルギー</b> 工場用途と事務所用途が混在していることから、製造ライン、建物用途別のエネルギー消費量計測が可能な計画としている。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 節水型器具を採用し省資源な計画としている。また、建材は有害なものは採用せず、再利用できるような計画としている。	<b>LR3 敷地外環境</b> 充分な駐車場、ごみ保管スペースを確保している。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■ LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEEさいたま2016年版**  
**信越ポリマー株式会社 東京工場 F工場**

■使用評価マニュアル CASBEEさいたま2016年版

欄に数値またはコメントを記入 ■評価ソフト:

CASBEEさいたま2016ver.2.0

スコアシート		実施設計段階							
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体			
<b>Q 建築物の環境品質</b>									<b>3.2</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>		-				<b>2.9</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.4</b>	0.15	-	-				<b>3.4</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-				
1.2 遮音		<b>4.2</b>	0.40	-	-				
1 開口部遮音性能	開口部分のサッシの遮音等級はT-2等級としている。	5.0	0.60	3.0	-				
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-				
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-				
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-				
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.6</b>	0.35	-	-				<b>2.6</b>
2.1 室温制御		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
1 室温		3.0	0.38	3.0	-				
2 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-				
3 ゾーン別制御性		3.0	0.38	-	-				
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-				
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-				
<b>3 光・視環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	-	-				<b>3.1</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-				
2 方位別開口		-	-	3.0	-				
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-				
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 昼光制御		3.0	1.00	<b>3.0</b>	-				
3.3 照度	全般照明方式で照度が500lx~1000lx未満に該当する。	<b>4.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-				
3.4 照明制御		<b>3.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-				
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.1</b>	0.25	-	-				<b>3.1</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-				
4.2 換気		<b>3.3</b>	0.30	-	-				
1 換気量	個別換気で、換気量30m <sup>3</sup> /人・hで計画している。	4.0	0.33	3.0	-				
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-				
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-				
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20	-	-				
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50	-	-				
2 喫煙の制御		3.0	0.50	-	-				
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-				<b>3.3</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.1</b>	0.40	-	-				<b>3.1</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40	-	-				
1 広さ・収納性		3.0	0.33	3.0	-				
2 高度情報通信設備対応		3.0	0.33	3.0	-				
3 バリアフリー計画		3.0	0.33	-	-				
1.2 心理性・快適性		<b>3.0</b>	0.30	-	-				
1 広さ感・景観		2.0	0.33	3.0	-				
2 リフレッシュスペース	従業員が利用する休憩室(172.81m <sup>2</sup> )を設けている。	4.0	0.33	-	-				
3 内装計画		3.0	0.33	-	-				
1.3 維持管理		<b>3.5</b>	0.30	-	-				
1 維持管理に配慮した設計	製造エリア内の清浄度を保つため、防汚性の高い内装仕上を採用	4.0	0.50	-	-				
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50	-	-				
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>2.8</b>	0.30	-	-				<b>2.8</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>3.0</b>	0.50	-	-				
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		3.0	0.80	-	-				
2 免震・制震・制振性能		3.0	0.20	-	-				
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>2.5</b>	0.30	-	-				
1 躯体材料の耐用年数		2.0	0.20	-	-				
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		1.0	0.20	-	-				
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	11年以上20年未満の更新頻度とします。	4.0	0.10	-	-				
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10	-	-				
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20	-	-				
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20	-	-				
1 空調・換気設備		3.0	0.20	-	-				
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-				
3 電気設備		3.0	0.20	-	-				
4 機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-				
5 通信・情報設備	通信手段の多様化、地下への精密機器設置なし、災害時も電話使	4.0	0.20	-	-				

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>4.0</b>	0.30	-	-	<b>4.0</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>5.0</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	最低でも階高を6mに設定。	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	耐震壁、ブレースがない純ラーメン構造としています。	5.0	0.40	3.0	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>4.2</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性	天井内の点検歩廊からの修繕・更新が可能。	5.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性	天井内の点検歩廊からの修繕・更新が可能。	5.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	天井内の点検歩廊からの修繕・更新が可能。	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	天井内の点検歩廊からの修繕・更新が可能。	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>		既存敷地の緑地空間に配慮し、周辺建物との調和に配慮した計画と	<b>4.0</b>	0.40	-	-	<b>4.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.5</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>4.1</b>
<b>1 建物の外皮の熱負荷抑制</b>		[BPI][BPIm]= 0.66	<b>5.0</b>	0.20	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.10	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEIm] = 0.70	<b>4.0</b>	0.50	-	-	<b>4.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>4.0</b>	0.20	-	-	<b>4.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>4.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	幹線ごとに計量が可能であり用途別エネルギー消費量の把握がで	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制	建築物エネルギー計画書を建築主に提出している。	4.0	0.50	-	-	
集合住宅の評価			-	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.1</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		便所は節水型、水栓は自動水栓としている。	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	<b>3.0</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		階高を十分に確保し解体作業が容易である。また鉄骨造としているので解体改修更新時に容易に取り外し可能。	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.3</b>	0.20	-	-	<b>3.3</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		仕上材は下地ともF☆☆☆☆としています。	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>2.6</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		2.0	0.33	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.3</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		CO2計算のシート参照	<b>3.6</b>	0.33	-	-	<b>3.6</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.1</b>	0.33	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	敷地内に十分な駐車場と駐輪場を確保している。	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		3.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>4.4</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害対策ガイドラインの過半を満たしている。広告物照明がない。	5.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	